2018年度 第３四半期
決算概要

2019年2月4日
パナソニック株式会社

Panasonic

- 本日はご多用のところ、お集まりいただき、
  誠にありがとうございます。
- ２０１８年度第3四半期決算概要につき、ご説明申し上げます。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度　第3四半期決算のポイント

- **第3四半期実績**
  - 売上高は、
    オートモーティブ＆インダストリアルシステムズは車載電池事業が伸長、
    エコソリューションズの住宅事業も堅調に推移し、全体で**増収**
  - 営業利益は、
    コネクティッドソリューションズはアビオニクスの減販損等が影響、
    アプライアンスはAVCやデバイスの販売が苦戦し、全体で**減益**
- **年間見通し**
  - 足元の経営状況を踏まえ、
    売上高、**営業利益**、**税引前利益**を**下方修正**
  - **当期純利益**は法人税等の良化を見込み、**据え置き**

Panasonic　2018年度 第3四半期 決算概要　1

- 最初に、今回の決算発表のポイントです。
- 第３四半期の売上高は、
  オートモーティブ＆インダストリアルシステムズで、
  車載電池事業が大きく伸長、
  エコソリューションズの住宅事業も堅調に推移し、
  全体で増収となりました。
- 営業利益は、
  コネクティッドソリューションズでアビオニクスの減販損等が影響、
  アプライアンスではAVCやデバイスの販売が苦戦し、
  全体では減益となりました。
- 年間見通しについては、足元の状況を踏まえ、
  売上高、営業利益、税引前利益を下方修正いたします。
- なお、当期純利益は法人税等の良化を見込み、据え置きます。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度 第３四半期 決算概要
2018年度 年間業績見通し

Panasonic

- まずはじめに、
  第3四半期の決算概要についてご説明します。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度３Ｑ 連結業績

（億円）

	18年度 3Q	17年度 3Q	前年比/差	
売上高	**20,748**	20,543	101% (102%)*1	+205
営業利益	**976**	1,201	81%	▲225
うち、その他損益 *2	**9**	▲46	−	+55
営業外損益	**▲6**	▲14	−	+8
税引前利益	**970**	1,187	82%	▲217
親会社の所有者に帰属する当期純利益	**601**	812	74%	▲211

為替レート	1USドル	**113円**	113円
	1ユーロ	**129円**	133円
	1人民元	**16.3円**	17.1円

＊1 為替の影響を除いた実質ベース
＊2 決算短信記載の「その他の損益」に「持分法による投資損益」を加えたもの

Panasonic 2018年度 第3四半期 決算概要 3

- 第3四半期の連結業績は、ご覧のとおりです。
- 売上高は2兆 748億円で、205億円の増収、
- 営業利益は、976億円で、225億円の減益、
  純利益は、601億円で、211億円の減益となりました。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度3Q セグメント別実績

（億円）

	売上高	前年比	為替影響除く実質ベース	営業利益	前年差	その他損益	前年差
アプライアンス	7,302	97%	98%	270	▲52	9	+15
エコソリューションズ *1	5,173	107%	108%	273	+5	▲6	▲4
コネクティッドソリューションズ	2,667	96%	96%	217	▲163	12	▲74
オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ	7,650	105%	106%	263	+19	27	+111
その他 *1	557	96%	–	3	+12	▲7	▲5
消去・調整	▲2,601	–	–	▲50	▲46	▲26	+12
連結決算	20,748	101%	102%	976	▲225	9	+55
アプライアンス（製販連結）	7,594	97%	99%	267	▲79	10	+7

＊1 2017年度に完全子会社となったパナホームは、2018年4月にパナソニック ホームズへと社名変更し、2018年度より「その他」から「エコソリューションズ」セグメントに変更しています。

Panasonic 2018年度 第3四半期 決算概要 4

- セグメント別の実績はご覧のとおりです。
- アプライアンスとコネクティッドソリューションズは、減収減益、
- エコソリューションズは、増収増益、
- オートモーティブ＆インダストリアルシステムズは、増収、利益は、その他損益の改善があり、増益となりました。
- 詳細は、次のページ以降でご説明いたします。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度3Q　セグメント情報

アプライアンス（製販連結）

概要

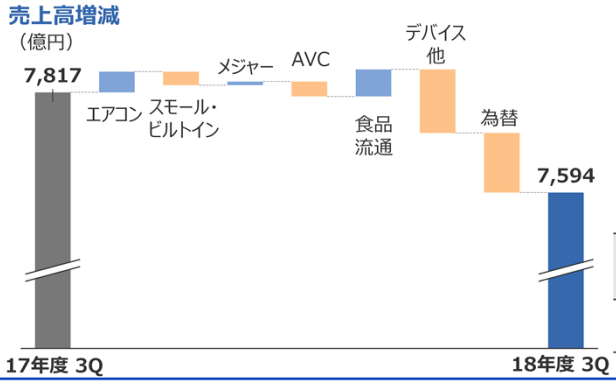
（億円）

	売上高	営業利益	その他損益
2018年度 3Q	**7,594**	267 3.5%	10
前年比/差	**97% (99%)*1**	▲79	+7

＊1　為替影響を除く実質ベース

売上高増減

（億円）



売上高

エアコン	大型空調を中心に日本で堅調に推移し、増収
スモール・ビルトイン	食洗機の販売は日本・中国で堅調に推移も、日本の健康・調理家電が苦戦し、減収
メジャー	日本の冷蔵庫は苦戦も、洗濯機が日本を中心に堅調に推移し、増収
AVC	日本のテレビは増収も、中南米のテレビ・オーディオが苦戦し、減収
食品流通	北米での受注が堅調に推移し、増収
デバイス他	中国エアコン市況悪化の影響を受けたデバイスとその他クロスセルの悪化

営業利益

スモール・ビルトインの減販損、
メジャーやAVCでの市場対応費用の増加、
中国向けデバイスの減販損等により、全体では減益

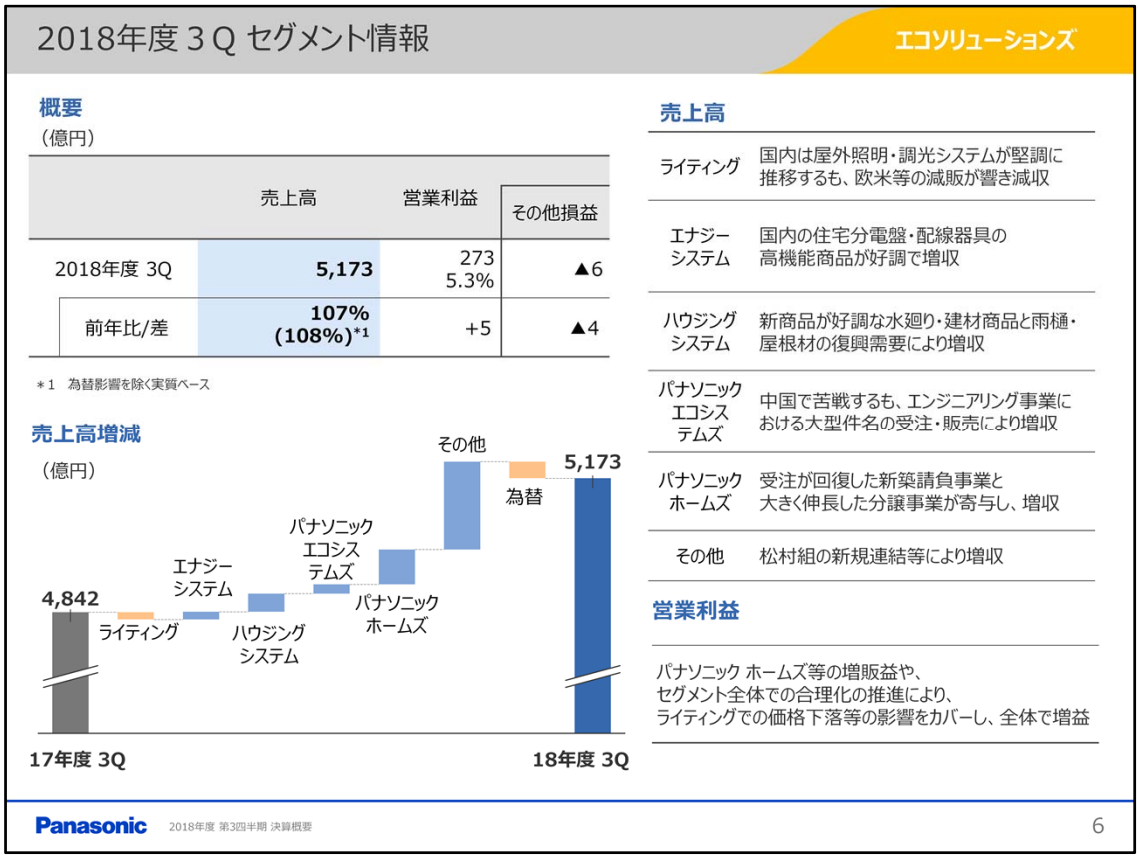
エアコン	売上高	前年差＊2	営業利益	前年差＊2	その他損益	前年差＊2
18年度 3Q	1,025	+25	17	+6	1	+1

＊2　為替影響を含む

Panasonic　2018年度 第3四半期 決算概要　5

- アプライアンス　製販連結ベースです。
- 売上高は、為替影響を除く実質ベースで、
  前年比99%となりました。
- エアコンは、大型空調を中心に国内販売が堅調に推移、
- 食品流通も、北米での堅調な受注により増収となったものの、
- スモール・ビルトインや、テレビ等、AVCの販売が落ち込み、
- また、エアコン向けデバイスも、中国市況悪化の影響を受け、
  全体では減収となりました。
- 営業利益は、
  スモール・ビルトインやデバイスの減販損に加え、
  メジャーやAVCでの市場対応費用の増加により、
  全体では減益となりました。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



2018年度３Ｑ セグメント情報

エコソリューションズ

概要

（億円）

	売上高	営業利益	その他損益
2018年度 3Q	**5,173**	273 5.3%	▲6
前年比/差	**107% (108%)*1**	+5	▲4

＊1　為替影響を除く実質ベース

売上高増減

（億円）

売上高

ライティング	国内は屋外照明・調光システムが堅調に推移するも、欧米等の減販が響き減収
エナジーシステム	国内の住宅分電盤・配線器具の高機能商品が好調で増収
ハウジングシステム	新商品が好調な水廻り・建材商品と雨樋・屋根材の復興需要により増収
パナソニックエコシステムズ	中国で苦戦するも、エンジニアリング事業における大型件名の受注・販売により増収
パナソニックホームズ	受注が回復した新築請負事業と大きく伸長した分譲事業が寄与し、増収
その他	松村組の新規連結等により増収

営業利益

パナソニック ホームズ等の増販益や、
セグメント全体での合理化の推進により、
ライティングでの価格下落等の影響をカバーし、全体で増益

Panasonic　2018年度 第3四半期 決算概要　6

- 次に、エコソリューションズです。
- 売上高は、為替影響を除く実質ベースで、
  前年比108%となりました。
- パナソニック ホームズは、
  新築請負事業の受注が好調なことに加え、
  分譲事業が大きく伸長。
- 新規連結の貢献もあり、全体では増収となりました。
- 営業利益は、パナソニック ホームズ等の、
  増販益や合理化推進の取り組みにより、
  ライティングの価格下落等の影響をカバーし、
  全体で、増益となりました。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度３Ｑ セグメント情報

コネクティッドソリューションズ

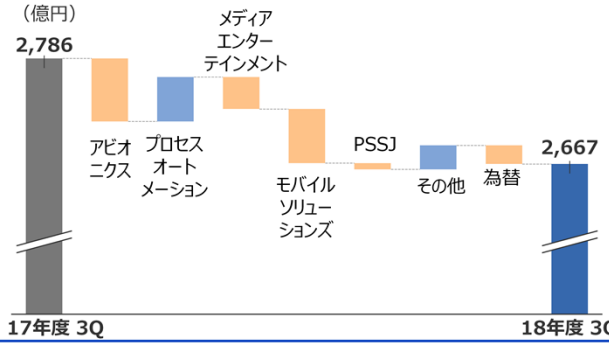
概要

（億円）

	売上高	営業利益	その他損益
2018年度 3Q	2,667	217 8.1%	12
前年比/差	96% (96%)*1	▲163	▲74

＊1　為替影響を除く実質ベース

売上高増減



売上高

アビオニクス	通信サービスやコンテンツ等の デジタルソリューション＆サービス事業、 リペア・メンテ事業の成長が継続するも IFEC*2の販売減により減収
プロセス オート メーション	車載/デバイス業界向け実装機、 自動車業界向け溶接機が 引き続き堅調で増収
メディア エンター テインメント	プロジェクターの欧米における販売遅延、 業務用カメラの中国での販売減により減収
モバイル ソリュー ションズ	堅牢ハンドヘルドは成長するも、 PC部品の調達課題、前年に計上した 決済端末の国内大型件名の反動により、 全体で減収
PSSJ*3	公共・自治体向け販売が伸長するも、 PC販売減の影響があり、ほぼ前年並み

営業利益

アビオニクスやメディアエンターテインメントの減販損や、
前年に引当金の戻し入れがあった反動等により、
全体で減益

*2 IFEC (Inflight entertainment + connectivity)
*3 パナソニック システムソリューションズ ジャパン㈱

Panasonic　2018年度 第3四半期 決算概要　7

- 続いて、コネクティッドソリューションズです。
- 売上高は、為替影響を除く実質ベースで
  前年比９６％となりました。
- プロセスオートメーションは、
  車載・デバイス業界向け実装機、自動車業界向け溶接機が
  引き続き堅調に推移し、増収。
- 一方でアビオニクスや、
  業務用カメラの販売減があったメディアエンターテインメント、
  前年の大型件名の反動を受けたモバイルソリューションズでは
  減収となりました。
- 営業利益は、
  アビオニクスやメディアエンターテインメントの減販損や、
  前年に引当金の戻し入れを計上した反動等により、
  減益となりました。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度3Q セグメント情報

オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ

概要

（億円）

	売上高	営業利益	その他損益
2018年度 3Q	**7,650**	263 3.4%	27
前年比/差	**105% (106%)*1**	+19	+111

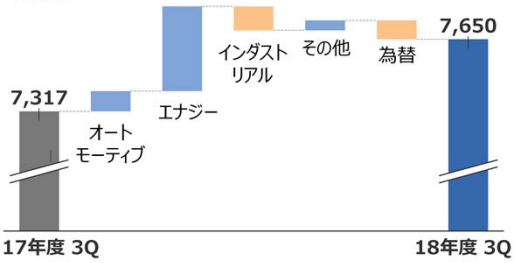
＊1 為替影響を除く実質ベース

カンパニー全体

売上高	オートモーティブ：インフォ、カメラ・ソナー等が増収 エナジー　　：円筒形を中心に車載電池大幅増収 インダストリアル：中国での設備投資減速により、メカトロニクスが減収
営業利益	オートモーティブの開発資産一部減損や、中国投資需要の減速によるインダストリアルの減販損があったものの、エナジーの固定費コントロール等や、その他損益の改善により、全体では増益

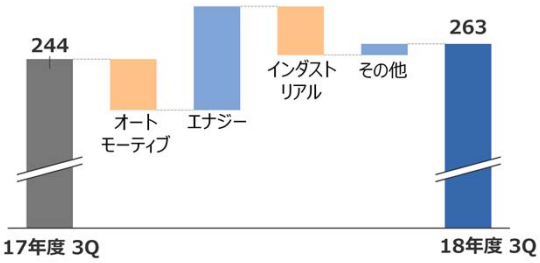
売上高増減

（億円）



営業利益増減

（億円）



Panasonic　2018年度 第3四半期 決算概要　8

- 最後に、オートモーティブ＆インダストリアルシステムズです。
- 売上高は、
  為替を除く実質ベースで、前年比106%、
- 営業利益も前年から19億円改善し、
- カンパニー全体では増収増益となりました。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度3Q セグメント情報

オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ

各事業の実績

（億円）

2018年度 3Q	売上高	前年比	為替影響除く実質ベース	営業利益	前年差	その他損益	前年差
オートモーティブ	**2,471**	103%	104%	**▲40**	▲65	**▲27**	+57
エナジー	**1,901**	125%	126%	**165**	+130	**58**	+63
インダストリアル	**2,314**	94%	95%	**104**	▲61	**▲2**	▲7

オートモーティブ	売上高	：日米顧客向けインフォテインメント、カメラ・ソナー、充電器が増収
	営業利益	：前年度に計上した品質対応費用の反動があったものの、欧州一部件名の開発資産の減損等により減益
エナジー	売上高	：車載電池が、円筒形を中心に大幅に増収
	営業利益	：北米車載電池工場の立上げ費用があったものの、エナジー全体での固定費コントロールの取り組みやオペレーション改善に加え、法務関連引当見直し等により、全体で増益
インダストリアル	売上高	：米中貿易摩擦影響等による中国設備投資需要の減速により、モータを中心とするメカトロニクスが減収
	営業利益	：メカトロニクスの減収により減益

Panasonic 2018年度 第3四半期 決算概要 9

- オートモーティブは、
  日米顧客向けインフォテインメントや
  カメラ・ソナー、充電器等が増収、
  一方、営業利益は、
  前年度に計上した品質対応費用の反動があったものの、
  欧州一部件名の開発資産減損等により、減益。
- エナジーは、
  車載電池が円筒形を中心に大幅増収、
  営業利益は、北米車載電池工場の立上げ費用があったものの、
  固定費コントロールやオペレーション改善に加え、
  法務関連引当見直し等により、増益。
- インダストリアルは、
  米中貿易摩擦の影響を受け、中国設備投資需要が減速し、
  モータを中心にメカトロニクスが大きく減収減益となりました。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度 第３四半期 決算概要

2018年度 年間業績見通し

Panasonic

- 続いて、２０１８年度年間業績見通しについてご説明します。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2018年度 年間業績見通し

（億円）

		2018年度 修正見通し（2019年2月4日）	2018年 10月31日公表	修正額	前年実績	前年差
売上高		**81,000**	83,000	▲2,000	79,822	+1,178
営業利益		**3,850**	4,250	▲400	3,805	+45
	うち、その他損益 *1	**600**	150	+450	▲207	+807
営業外損益		**0**	▲50	+50	▲19	+19
税引前利益		**3,850**	4,200	▲350	3,786	+64
親会社の所有者に帰属する当期純利益		**2,500**	2,500	-	2,360	+140
為替レート	1USドル	**111円**	110円	+1円	111円	-
	1ユーロ	**130円**	130円	-	130円	-
	1人民元	**16.6円**	16.6円	-	16.8円	▲0.2円

＊1 決算短信記載の「その他の損益」に「持分法による投資損益」を加えたもの

Panasonic 2018年度 第3四半期 決算概要 11

- 足元の経営状況を踏まえ、
  2018年10月31日公表の年間業績見通しから、
  ご覧のとおり修正いたします。
- 売上高は、2，000億円の下方修正、
- 営業利益は、
  その内訳としての、その他損益が、450億円良化するものの、
  事業からの利益の状況を反映し、
  全体では、400億円の下方修正、
- 税引前利益は、350億円の下方修正を行います。
- なお、当期純利益は、
  法人税等の良化を見込んでおり、変更はございません。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

セグメント別の見通し修正

年間見通しの修正（2018年10月31日時点からの修正）

（億円）

	売上高			営業利益			その他損益		
	修正見通し	前年差	修正額	修正見通し	前年差	修正額	修正見通し	前年差	修正額
アプライアンス	**27,680**	▲162	▲320	**900**	▲178	▲180	**20**	▲15	+15
エコソリューションズ *1	**20,300**	+726	-	**930**	+118	-	**20**	+89	-
コネクティッドソリューションズ	**11,200**	+96	-	**880**	▲156	-	**▲20**	▲37	-
オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ	**29,850**	+1,811	▲850	**670**	▲264	▲360	**0**	+92	+130
その他 *1	**3,100**	▲85	-	**0**	▲20	-	**0**	▲17	-
消去・調整	**▲11,130**	▲1,208	▲830	**470**	+545	+140	**580**	+695	+305 *2
連結決算	**81,000**	+1,178	▲2,000	**3,850**	+45	▲400	**600**	+807	+450
アプライアンス（製販連結）	**28,700**	▲37	▲300	**880**	▲191	▲200	**20**	▲13	+15

＊1 2017年度に完全子会社となったパナホームは、2018年4月にパナソニック ホームズへと社名変更し、2018年度より「その他」から「エコソリューションズ」セグメントに変更しています。
＊2 年金制度改定影響額の確定に伴う利益増、等

Panasonic 2018年度 第3四半期 決算概要 12

- こちらでは、セグメントの見通し修正額を示しております。
- 修正内容の詳細は、次のページ以降でご説明いたします。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

セグメントの見通し修正

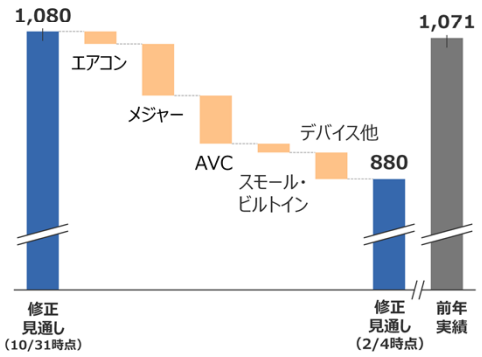
アプライアンス（製販連結）

2018年度 修正見通し（2019年2月4日時点）	売上高	前年差	修正額*	営業利益	前年差	修正額*	その他損益	前年差	修正額*
アプライアンス（製販連結）	28,700	▲37	▲300	880	▲191	▲200	20	▲13	+15
エアコン（製販連結）	5,075	+196	▲25	200	▲46	▲17	▲2	▲20	▲2

*2018年10月31日時点からの修正額

営業利益の修正要因

（億円）



修正要因	・エアコン	：中国・インドのルームエアコンの販売苦戦
	・冷蔵庫	：他社価格攻勢に対する市場対応費用の拡大
	・テレビ	：他社価格攻勢、市場対応費用の拡大、インドでのオンライン販売拡大で低価格化進行
課題	・エアコン	：空調専門店ルートの整備や、高付加価値商品へのシフト
	・冷蔵庫	：価格攻勢を受けにくい商品展開
	・テレビ	：高付加価値モデルへのリソースシフト加速
次年度以降を見据えた対策	・エアコン	：高付加価値商品のラインナップ充実と販売体制強化の継続
	・冷蔵庫	：集中購買の加速、部品の統一等によりコスト力を強化し、商品ラインナップを拡充
	・テレビ	：有機EL/大画面の高付加価値品に注力

Panasonic 2018年度 第3四半期 決算概要 13

- まず、アプライアンスです。
- 売上高、営業利益ともに見通しを下方修正いたします。
- 冷蔵庫やテレビは、他社からの価格攻勢を受けて、販売が苦戦し、追加の対策費用が拡大。
- 中国向けの家電やデバイスは、景気の減速により販売が落ち込み、これらを見通しに反映いたしました。
- 今後の対策として、エアコンでは、高付加価値商品のラインナップを充実。
- 冷蔵庫など、白物家電では、商品力の強化やコスト低減を図るとともに、在庫を適切な水準でコントロール、
- テレビでは、高付加価値商品へのシフトを加速するなど、収益力の向上を図ってまいります。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

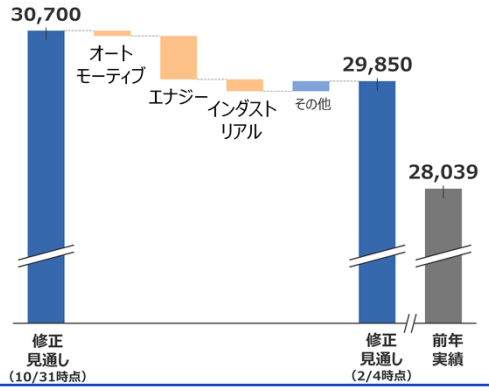
セグメントの見通し修正

オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ

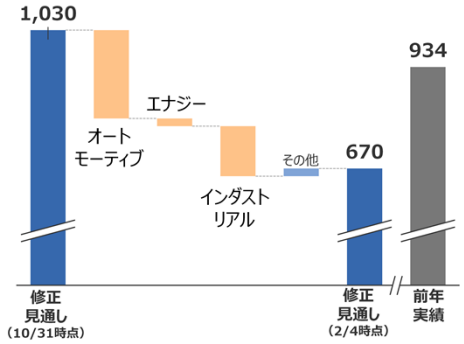
2018年度 修正見通し (2019年２月４日時点)	売上高	前年差	修正額*	営業利益	前年差	修正額*	その他損益	前年差	修正額*
ｵｰﾄﾓｰﾃｨﾌﾞ＆ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙｼｽﾃﾑｽﾞ	**29,850**	+1,811	▲850	**670**	▲264	▲360	**0**	+92	+130
オートモーティブ	**9,727**	+439	▲90	**44**	▲273	▲230	**▲5**	+43	+40
エナジー	**7,150**	+1,525	▲730	**201**	+90	▲20	**65**	+15	+90
インダストリアル	**9,391**	▲61	▲200	**358**	▲62	▲130	**▲39**	+34	+10

*2018年10月31日時点からの修正額

売上高の修正
（億円）



営業利益の修正
（億円）



Panasonic　2018年度 第3四半期 決算概要　14

- 続いてオートモーティブ＆インダストリアルシステムズです。
- 開示事業単位すべてにおいて、売上、営業利益ともに下方修正いたしました。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

セグメントの見通し修正

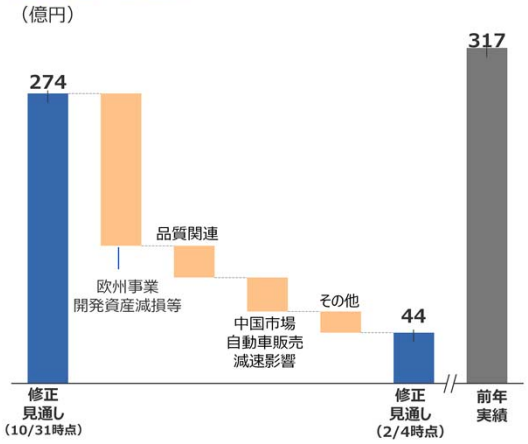
オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ

オートモーティブ事業

2018年度 修正見通し (2019年２月４日時点)	売上高	前年差	修正額*	営業利益	前年差	修正額*	その他損益	前年差	修正額*
オートモーティブ	9,727	+439	▲90	44	▲273	▲230	▲5	+43	+40

*2018年10月31日時点からの修正額

営業利益の修正要因

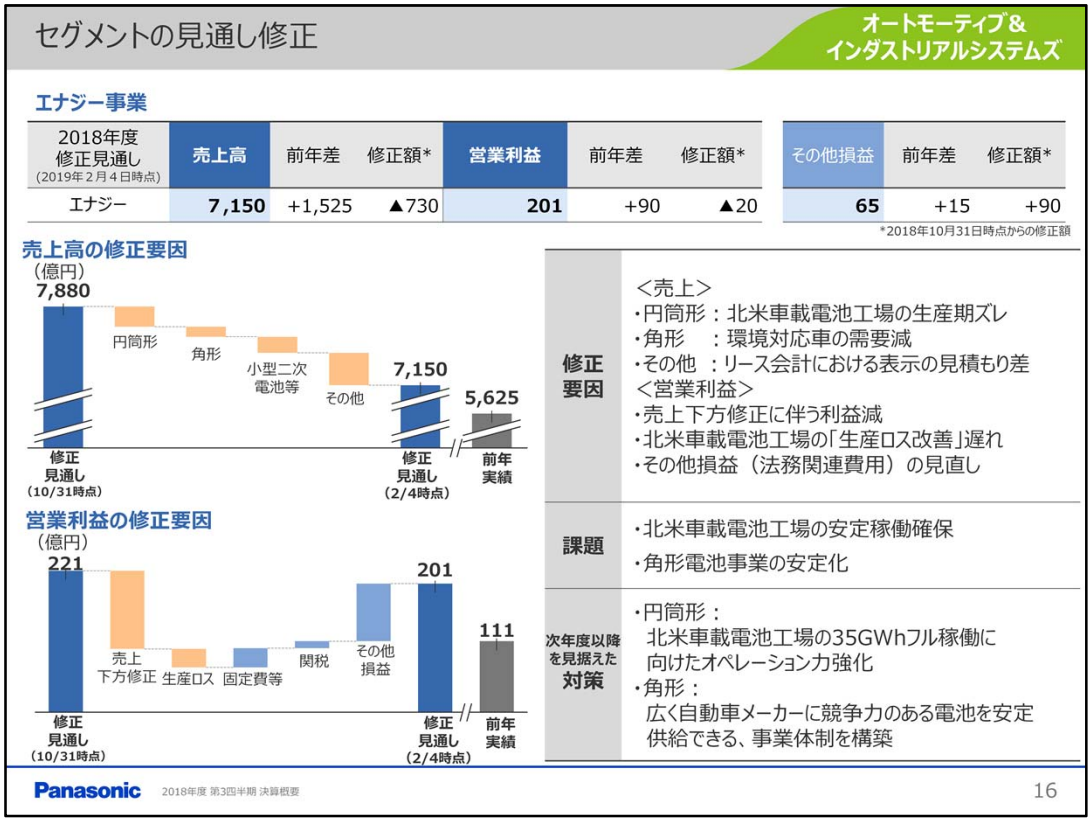


修正要因	・欧州事業の開発資産減損等 ・北米顧客への品質対応にかかる一時費用 ・米中貿易摩擦の影響を受け、中国市況が悪化、自動車販売の減速
課題	・欧州のプロジェクト管理、開発費マネジメント
次年度以降を見据えた対策	・グローバル開発管理体制の強化・再構築 特に、欧州開発については、日本からの開発プロジェクト管理を強化し、安定化を図るとともに、引き続き体制の見直しを行う

Panasonic 2018年度 第3四半期 決算概要 15

- こちらは、オートモーティブの修正内容です。
- 売上は、中国における自動車販売の減速により、下方修正。
- 営業利益は、欧州の一部件名での開発資産減損等や、北米顧客への品質対応にかかる一時費用等を織り込み、大幅に下方修正いたしました。
- 今後も、引き続きグローバル開発管理体制を強化してまいります。特に、課題である欧州事業につきましては、件名管理体制の見直し等を推進し、収益改善を図ってまいります。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- 続いて、エナジーです。
- 売上は、
  円筒形では、北米工場の電池生産の期ズレ、
  角形では、環境対応車の需要減を織り込みました。
  また、その他、リース会計における表示の見積もり差等も
  加味し、下方修正。
- 営業利益は、
  売上修正に伴う利益の減少の他、
  想定よりも、北米工場の生産ロス改善が遅れていること等
  から、下方修正いたしました。
- 円筒形に関しては、
  オペレーション力強化を図ることで、
  北米工場の稼働を安定させて参ります。
- 角形に関しては、
  先日発表したとおり、
  広く自動車メーカーに競争力ある電池を供給できる、
  事業体制を構築してまいります。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

セグメントの見通し修正

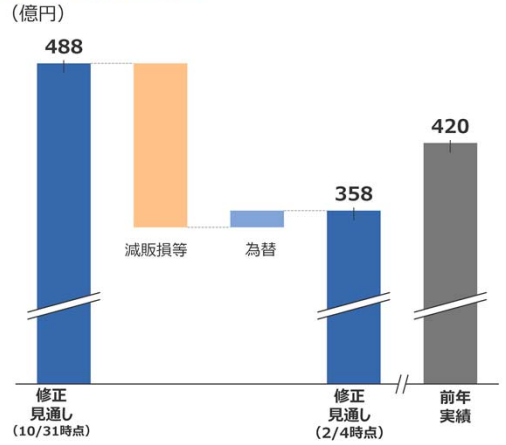
オートモーティブ＆
インダストリアルシステムズ

インダストリアル事業

2018年度 修正見通し (2019年２月４日時点)	売上高	前年差	修正額*	営業利益	前年差	修正額*	その他損益	前年差	修正額*
インダストリアル	**9,391**	▲61	▲200	**358**	▲62	▲130	**▲39**	+34	+10

*2018年10月31日時点からの修正額

営業利益の修正要因



修正要因	・中国市況悪化等に伴うモータ等の減販損
課題	・中国市況悪化に伴う、更なる設備投資需要の減速
次年度以降を見据えた対策	・モータの、スマホ・中国の依存度を低減、製品ラインナップ拡充と顧客接点強化による用途拡大、地域展開を加速

Panasonic 2018年度 第3四半期 決算概要 17

- 最後にインダストリアルです。
- 売上は、
  中国市況が悪化していることを受け、
  設備投資需要が急速に減速、
  モータを中心に減販が拡大していることから、
  売上高、営業利益ともに下方修正いたしました。
- モータ事業においては、
  中国市況のさらなる悪化に備え、
  スマホ製品や、中国への依存度を低減させながら、
  併せて、収益力を強化してまいります。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic

- ご説明は以上となります。
- 先ほど申し上げましたとおり、
  今回の決算では、足元の経営環境を踏まえ、
  全社の見通しを修正いたしました。
- 現在、課題となっている低収益事業については、
  引き続き、収益改善に向けた取り組みを徹底するとともに、
- 事業ポートフォリオマネジメントの推進を強化し、
- 全社の収益性向上に取り組んでまいります。
- ご清聴、ありがとうございました。

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

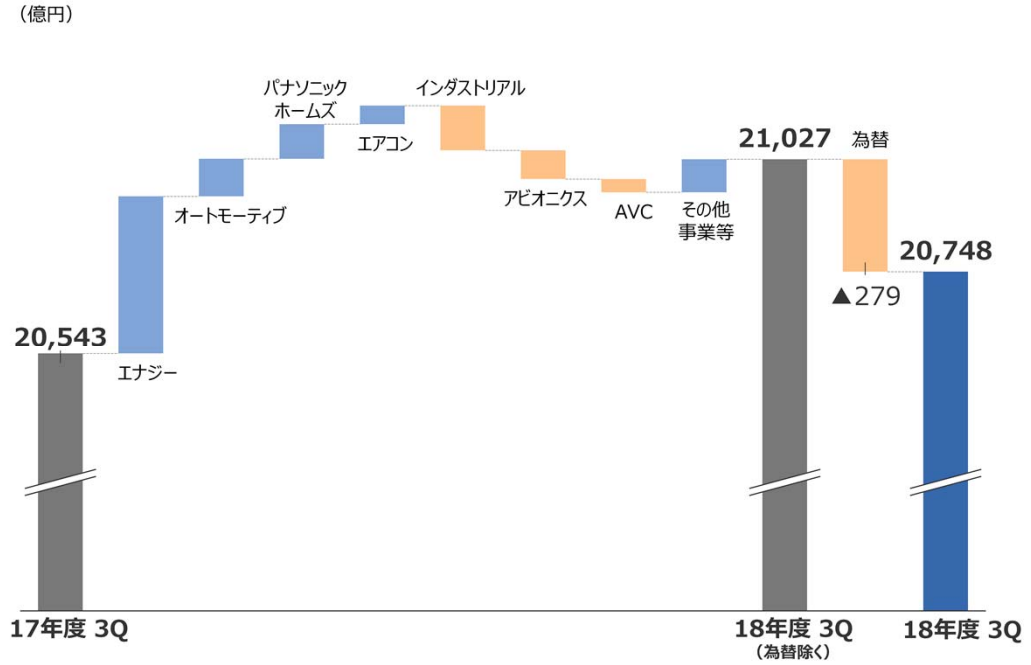
本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされたパナソニックグループの仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。また本プレゼンテーションの開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表のレビュー手続が実施中です。投資家の皆様におかれましては、金融商品取引法に基づく今後の提出書類およびその他の当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

- 米州、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
- 多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
- ドル、ユーロ、人民元等の対円為替相場の過度な変動により外貨建てで取引される製品・サービスなどのコストおよび価格が影響を受ける可能性
- 資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
- 急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入することができない可能性
- 他企業との提携または企業買収等で期待どおりの成果を上げられない、または予期しない損失を被る可能性
- パナソニックグループが他企業と提携・協調する事業の動向（BtoB（企業向け）分野における、依存度の高い特定の取引先からの企業努力を上回る価格下落圧力や製品需要の減少等の可能性を含む）
- 多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持することができなくなる可能性
- 製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
- 第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
- 諸外国による現在および将来の貿易・通商規制、労働・生産体制への何らかの規制等（直接・間接を問わない）
- パナソニックグループが保有する有価証券およびその他の金融資産の時価や有形固定資産、のれん、繰延税金資産などの非金融資産の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
- ネットワークを介した不正アクセス等により、当社グループシステムから顧客情報・機密情報が外部流出する、あるいはネットワーク接続製品に脆弱性が発見され、多大な対策費用負担が生じる可能性
- 地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2018年度３Ｑ 事業別 売上高増減

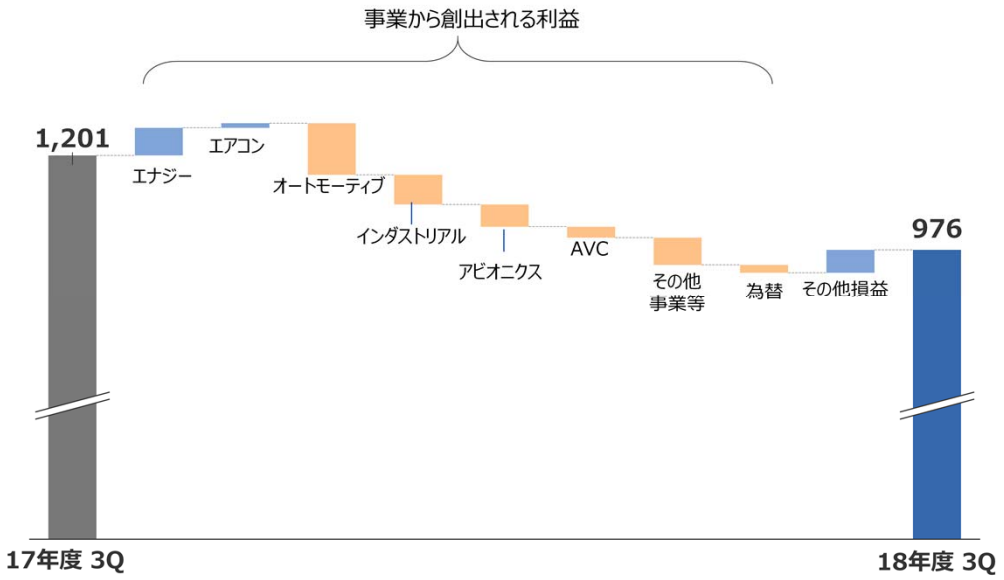


＊2018年度の「売上開示事業単位」は、末尾の「参考」情報に記載

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2018年度３Ｑ 事業別 営業利益増減

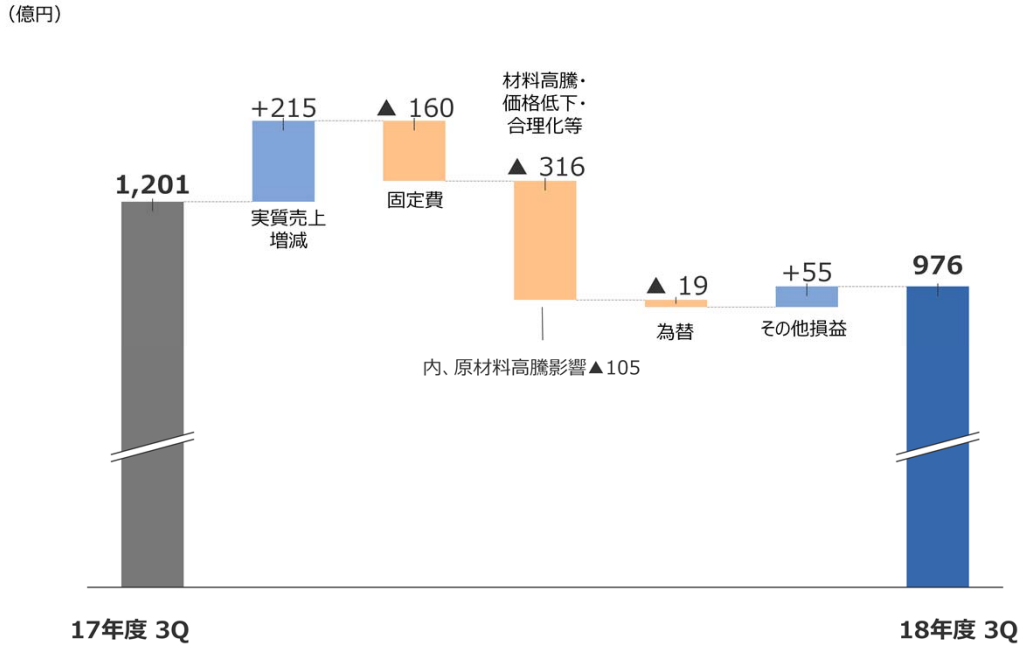
（億円）



＊2018年度の「売上開示事業単位」は、末尾の「参考」情報に記載

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2018年度３Ｑ 要素別 営業利益増減



Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2018年度３Ｑ 営業利益･当期純利益

（億円）

	18年度 3Q	17年度 3Q	前年差
営業利益	**976**	1,201	▲225
営業外損益	**▲6**	▲14	**+8**
税引前利益	**970**	1,187	▲217
法人所得税費用	**▲313**	▲328	+15
当期純利益	**657**	859	▲202
親会社の所有者に帰属する当期純利益	**601**	812	▲211
非支配持分に帰属する当期純利益	**56**	47	+9

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2018年度３Q（累計） 連結業績

（億円）

	18年度 3Q累計	17年度 3Q累計	前年比/差	
売上高	**60,830**	59,122	103% (103%)*1	+1,708
営業利益	**2,928**	3,167	92%	▲239
うち、その他損益 *2	**223**	▲107	−	+330
営業外損益	**15**	▲32	−	+47
税引前利益	**2,943**	3,135	94%	▲192
親会社の所有者に帰属する当期純利益	**1,737**	2,001	87%	▲264

為替レート	1USドル	**111円**	112円
	1ユーロ	**129円**	129円
	1人民元	**16.6円**	16.6円

＊1 為替の影響を除いた実質ベース
＊2 決算短信記載の「その他の損益」に「持分法による投資損益」を加えたもの

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考）事業部一覧（2019年2月4日時点）

アプライアンス（AP）

- エアコンカンパニー
- テレビ事業部
- イメージングネットワーク事業部
- ホームエンターテインメント事業部
- コミュニケーションプロダクツ事業部
- 冷蔵庫事業部
- ランドリー・クリーナー事業部
- キッチンアプライアンス事業部
- ビューティ・リビング事業部
- 冷熱空調デバイス事業部
- スマートエネルギーシステム事業部
- コールドチェーン事業部
- Hussmann Corporation

エコソリューションズ（ES）

- ライティング事業部
- エナジーシステム事業部
- ハウジングシステム事業部
- パナソニック エコシステムズ㈱
- パナソニック ホームズ㈱
- パナソニック サイクルテック㈱

コネクティッドソリューションズ（CNS）

- Panasonic Avionics Corporation
- プロセスオートメーション事業部
- メディアエンターテインメント事業部
- モバイルソリューションズ事業部
- セキュリティシステム事業部
- パナソニック システムソリューションズジャパン㈱

オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ（AIS）

- インフォテインメントシステム事業部
- 車載エレクトロニクス事業部
- Ficosa International, S.A.
- エナジーデバイス事業部
- エナジーソリューション事業部
- テスラエナジー事業部
- オートモーティブエナジー事業部
- メカトロニクス事業部
- パナソニック セミコンダクターソリューションズ㈱
- デバイスソリューション事業部
- 電子材料事業部
- パナソニック液晶ディスプレイ㈱

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考）2018年度 売上開示事業の構成

アプライアンス（AP）	• エアコン事業	： エアコンカンパニー
	• スモール・ビルトイン事業	： キッチンアプライアンス事業部、ビューティ・リビング事業部
	• メジャー事業	： 冷蔵庫事業部、ランドリー・クリーナー事業部
	• AVC事業	： テレビ事業部、イメージングネットワーク事業部、ホームエンターテインメント事業部、コミュニケーションプロダクツ事業部
	• 食品流通事業	： コールドチェーン事業部、Hussmann Corporation
エコソリューションズ（ES）	• ライティング事業部	
	• エナジーシステム事業部	
	• ハウジングシステム事業部	
	• パナソニック エコシステムズ㈱	
	• パナソニック ホームズ㈱	
コネクティッドソリューションズ（CNS）	• アビオニクス事業	： Panasonic Avionics Corporation、アビオニクスビジネスユニット
	• プロセスオートメーション事業部	
	• メディアエンターテインメント事業部	
	• モバイルソリューションズ事業部	
	• PSSJ	： パナソニック システムソリューションズ ジャパン㈱
オートモーティブ＆インダストリアルシステムズ（AIS）	• オートモーティブ事業	：インフォテインメントシステム事業部、車載エレクトロニクス事業部 Ficosa International, S.A.
	• エナジー事業	：エナジーデバイス事業部、エナジーソリューション事業部、テスラエナジー事業部、オートモーティブエナジー事業部
	• インダストリアル事業	：メカトロニクス事業部、パナソニック セミコンダクターソリューションズ㈱、デバイスソリューション事業部、電子材料事業部、パナソニック液晶ディスプレイ㈱

Copyright (C) 2019 Panasonic Corporation All Rights Reserved.